

比較植民地主義研究－フランス・アルジェリアと日本・朝鮮関係の比較史－

専門分野

歴史学

キーワード

植民地化 脱植民地化 比較植民地主義
植民地責任論

研究目的・概要

本学の共同研究として、2015年より長く続けてきたフランス・アルジェリアと日本・朝鮮関係の比較史の研究成果がようやく以下の写真の本『植民地化・脱植民地化の比較史－フランス・アルジェリアと日本・朝鮮関係を中心に－』（544頁）として出版にこぎつけることができました。

最初は学内の教員と日本在住の研究者との小さな研究会でしたが、私が海外研修で2018年から南仏のエクサン・プロヴァンス政治学院に研究員として滞在して以来、研究会は国際化し、フランス・アルジェリア・日本・朝鮮の4つの地域の研究者14人が集合し、執筆陣として力を込めて描いた最新の植民地主義をめぐる学際的研究となりました。内容は以下の通りです。

- I 植民地化・植民地支配と民族運動・労働運動
 - II 脱植民地化の過程
 - III 独立／解放後の政治と経済
 - IV 人の移動と被植民者（移民）の地位
 - V フランス・アルジェリア・日本関係からみたグローバル・ヒストリー
 - VI 植民地と文学、VII 「記憶の戦争」と植民地責任論
- 結び－グローバル・ヒストリーと日本・フランスの植民地化・脱植民地化の比較史の交錯

表紙の写真は、上が1945年8月15日ソウルに発足した「朝鮮建国準備委員会」の呂運亨委員長を迎える市民、下は1962年7月2日国民投票の翌日、歓喜するアルジェリア市民（総督府の前）を映し出しています。歴史的には脱植民地化と言われる過程の始まりです。

このような比較植民地主義研究は今日世界的にも活発になってきています。この国際学術交流は、フランスと日本のそれぞれの研究機関で研究会やシンポジウムを開催するなどして、さまざまなルーツの研究者同士の討論によって進められました。西欧のフランスの帝国主義と非西欧（東アジア）の日本の帝国主義の比較を、植民地のアルジェリアと朝鮮の側から分析したものです。ヨーロッパと東アジアという遠く離れた地域を比較していること、時間軸では19世紀から21世紀にまたがっていることから、グローバル・ヒストリーの可能性も秘めています。

この本が世界史のグローバルな見方に貢献できることを期待しています。今年は1年をかけて、本書をフランス語に翻訳し、フランスで出版する予定です。

植民地化・脱植民地化の比較史



フランス・アルジェリアと
日本・朝鮮関係を中心に

◎ 小山田紀子 吉澤文寿 ウォルター・アリュイエル・オステル



4地域の研究者の学際的討論に基づく
「植民地責任」論をめぐる
比較研究の最新成果！

西欧のフランスと東アジアの日本の植民地主義を比較し、
植民地と宗主国の関係と「その後」の歴史を
植民地側の視点に立ち問い直す。
4地域・全14名の識者による野心的試み。 定価 本体 6,200円＋税 藤原書店

『植民地化・脱植民地化の比較史』



国際学部 国際文化学科
小山田 紀子 教授

担当科目：世界史（近現代）、異文化理解、中東・北アフリカ地域論

HP

https://www.nuis.ac.jp/teacher_oyamada/

Researchmap

<https://researchmap.jp/read0035340>